

# 都市再生整備計画

かみ かわしゅうへん  
上の川周辺地区

おおさかふ すいたし  
大阪府 吹田市

令和2年4月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

## 目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	大阪府	市町村名	吹田市	地区名	上の川周辺地区	面積	350	ha
-------	-----	------	-----	-----	---------	----	-----	----

計画期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度	交付期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度
------	-------------------	------	-------------------

### 目標

大目標:「地域を繋ぐみどりと防災のネットワークを整備して、安心・安全でにぎわいのあるまちづくり」

目標1:神崎川から豊津駅まで続くみどりのネットワーク軸を垂水上池公園までみどりの高質空間として延伸し、心がやすらぎ、人と地域と自然を育む

目標2:みどりの拠点(関西大学)からみどりの骨格(神崎川)まで繋がる歩行空間と点在する既存公園等を利用してウォーキング等による市民の健康増進を図る

目標3:一時避難地及び災害時用臨時ヘリポートに位置づけられる関西大学へのアクセス道路の強化を図るとともに、市民と連携した防災啓発イベント等により地域防災力の向上を図る

### 目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

本市は、大阪府に隣接して国土軸上に位置するという恵まれた立地条件に加え、市内全域が市街化区域かつDIDに指定され、住居系中心の用途地域を指定しており、平均人口密度は現在約100人/haで、今後もほぼ同水準が維持される見通しである。このような高密度な人口集積を背景に、市内に15箇所ある鉄道駅とそれを補完するバス停利用圏域により市内全域がほぼカバーされ、公共交通にも恵まれた環境となっている。また、みどり豊かな市街地が形成されていること、長年にわたるまちづくりへの取組の成果等から、今日においても依然として人口が増加し続けている全国的にも恵まれた状況にある。今後、本市でも長期的には少子高齢化、人口減少社会に直面することとなるが、その状況においても、全国的に見ても高い水準の人口密度を維持し続ける見通しである。

したがって、市街地の集約を意味する「コンパクトシティ」をめざす必要はないが、超高齢社会に対応し、健康寿命の延伸や、子育て環境の充実といった良好なまちづくりを推進していくために、民間事業者や国、大阪府等の様々な機関と連携し、都市機能増進に資する施設の適正な立地を誘導していくこと等が重要である。

本市の立地適正化計画においては、市街地の集約化をめざした施設の立地誘導を行うものではなく、本市の都市計画マスタープランの基本理念である「暮らしに安心と快適性をもたらす定住のまちづくり」、「誇りと愛着の持てる活力あるまちづくり」を実現するため、本市全体の都市再生を促進していく。よって、住宅及び都市機能増進施設の立地の適正化に関する基本的な方針として、「快適で安心して暮らせる住みやすい居住環境の構築」、「地域ごとの価値を高める拠点機能の充実」、「日常的な生活を支える施設のさらなる充実」の3つを掲げ、居住誘導区域及び都市機能誘導区域の設定や誘導施設の設定を行う。

都市機能の誘導等においては、単に都市機能を誘導するだけでなく、都市機能誘導の多面的な効果にも配慮しながら施策を展開していくことが必要で、誘導施設に位置づけている大学については、高度な学術・研究機能を有するとともに、広大なオープンスペースを有している。本市においては、ハード・ソフトの両面から大学と連携して災害時の対応を行うことも配慮事項としている。

### まちづくりの経緯及び現況

●当該地区は、大正末期の北大阪電気鉄道(現阪急電鉄)の開通に伴い、郊外住宅地として開発され、閑静な住宅街として発展してきた。

●豊津駅から関大前駅までの区間は、阪急電鉄、上の川、府道吹田箕面線が並走し、その機能向上が求められているが、市街化の進展により用地確保が困難となっている。

●人口と高齢化率は増加傾向にあり、高齢者が気軽に運動ができる環境や外出しやすい環境の整備が望まれている。

●垂水神社の周辺にある樹林は自然性が高く、貴重なみどりとして残っており、桜並木のある糸田川は、まちなかでの貴重な緑と水の空間となっているが、まとまったみどりが乏しく、かつ、建物などの密集により、新たなみどりを増やすために用地を確保することが難しいため、立体的な緑化など創意工夫を施した緑化に取り組んでいくことが課題となっている。

●上町断層帯地震では、市域の木造建物のうちおよそ76%が全・半壊し、早期で死者が約1,300人、罹災者は約18万人に達し、避難所生活者は約5万人になると想定されている。

関西大学は、『地域防災計画(平成29年3月修正)』で一時避難地、災害時用臨時ヘリポートに位置づけられている。本市と『災害に強いまちづくりにおける連携協定(平成25年5月)』を締結し、『国土強靱化貢献団体(平成28年7月)』の認証を受け、災害に備えた発電設備や備蓄倉庫の整備が進められるなど、防災面での更なる機能強化が期待されているが、地域緊急交通路である府道吹田箕面線と関西大学を結ぶ市道が狭隘で緊急物資の輸送等に支障となっている。

●『吹田市都市計画マスタープラン(2015-2024)』のアンケート調査結果では、「歩行者や自転車が快適に利用できる道が整備されている」が、現状に対する満足度が低いうえに、今後の重要テーマとしての関心度が高い。本地区では、上の川に並走する府道吹田箕面線の歩行空間確保が、過去より吹田市の懸案となっている。

●平成27年に大阪府、吹田市、関西大学、阪急電鉄の4者による勉強会が発足するなど、地域の課題解決に向けた機運が高まってきたことから、地元の協力のもと関係4者で連携し、地域課題の解消に向けたまちづくりを目指すこととした。

### 課題

●『吹田市第2次みどりの基本計画(平成28年8月)』では、関西大学が「みどりの拠点」、神崎川が「みどりの骨格」、糸田川や上の川が「みどりの拠点・骨格をつなぐネットワーク軸」として位置づけられているが、遊歩道が整備されている糸田川より上流に位置する上の川の緑化が課題となっている。

●本市では、『健康づくり都市宣言(昭和58年10月)』、『健康すいた21(第2次)(平成28年3月)』の計画策定、北大阪健康医療都市のまちづくりなどの取組が進められている。『健康すいた21(第2次)(平成28年3月)』では、「ウォーキングなど、気軽に運動ができる環境や外出しやすい環境を整備することとされているが、既存ウォーキングルートは豊津から垂水上池公園の間で分断されている。

●『地域防災計画(平成29年3月修正)』において一時避難所及び災害時用臨時ヘリポートとして位置づけられ、今後、防災面での機能強化が期待される関西大学へのアクセス道路が狭隘であるため、拡幅が必要である。

### 将来ビジョン(中長期)

●『吹田市第4次総合計画(2019-2028)』では、将来像を「まちの魅力や強みをさらに高めながら、確実に将来世代へつなぎ、だれもが安心してすこやかに快適に暮らし続けられるまちをめざす」としている。

●『都市計画マスタープラン(2015-2024)』では、基本理念を「暮らしに安心と快適性をもたらす定住のまちづくり」誇りと愛着の持てる活力あるまちづくりとし、豊津駅、関大前駅は地域拠点、上の川及び府道吹田箕面線は地域軸に位置づけられており、機能の充実を図ることとされている。

●『吹田市立地適正化計画(平成31年3月)』における都市機能の誘導によりめざす方向(千里山・関大前・豊津・緑地公園区域)としては、良好な居住環境や生活関連機能に加え、不足している子育て支援機能を強化するとともに、本市で最も学生数の多い大学を有する区域として、若い世代がにぎわうまちの形成を進めることとされている。

都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

都市機能誘導区域を都市拠点、地域拠点を基本として次の3つの考え方を踏まえて設定している。

① 都市拠点、地域拠点に位置する鉄道駅を中心に徒歩圏(半径800m)の区域。② 市域外の鉄道駅を中心とした徒歩圏(半径800m)に含まれる区域。③ 徒歩圏域が重複又は近接する区域。

以上により市内に7つの都市機能誘導区域を設定しているが、区域ごとの特徴(強み)と課題から立地適正化の基本的な方針及び国土交通省策定の「立地適正化計画作成の手引き」をもとに、ターゲット(まちづくりの方針)、誘導施設の位置づけを行っている。

本計画における都市構造再編集中支援事業区域における都市機能の誘導により目指す方向としては、良好な居住環境や生活関連機能に加え、不足している子育て支援機能を強化するとともに、本市で最も学生数の多い大学を有する区域として、若い世代がにぎわうまちの形成を進める。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

高質空間を整備するために河川を暗渠化して用地を創出することで、神崎川から糸田川まで連続するみどりのネットワーク軸を垂水上池公園まで延伸し、心がやすらぎ、人と地域と自然を育む。また、整備した遊歩道のほかに点在する既存公園に健康増進の遊具等を整備することで、遊具の利用とウォーキング等の運動の相乗効果により、高齢者を含む幅広い世代の健康増進、健康寿命の延伸を図る。

地域防災力の向上を図るために、一時避難地及び災害時用臨時ヘリポートに位置づけられる関西大学へのアクセス道路の改良を行う。また、防災拠点としての機能を促進するために、学生、地域等を交えて防災拠点啓発イベントを行う。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

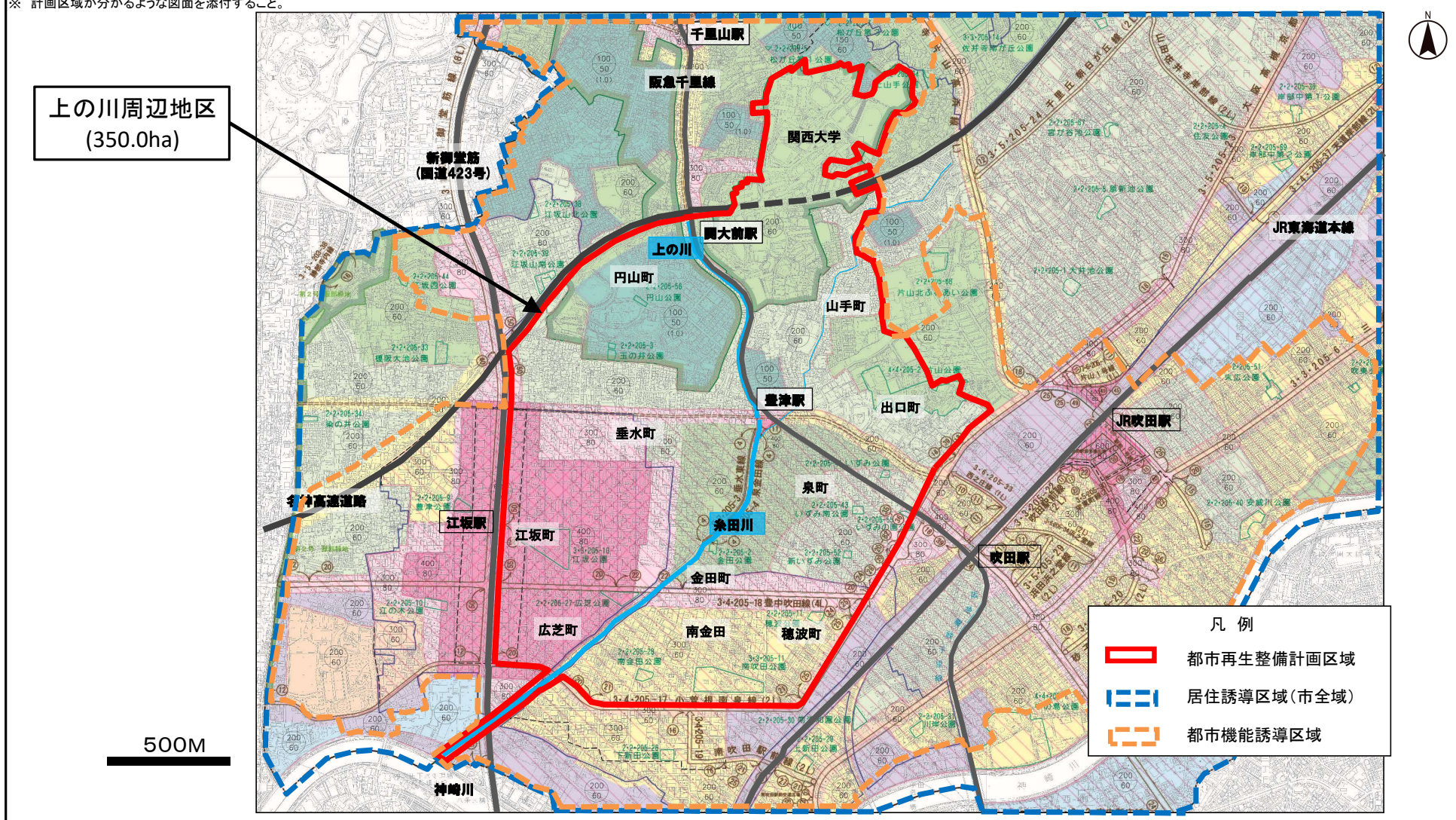
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
ぶらっと吹田ウォーキング参加者数	人	上の川周辺のぶらっと吹田ウォーキングコースで開催されるウォーキングイベントへの参加者数を確認する	上の川に整備する高質空間(遊歩道)によりぶらっと吹田のネットワーク網が拡大されてウォーキング等による市民の健康増進が図れたか効果測定ができる	46	平成30年度	70	令和6年度
交通事故の減少	件	高質空間を形成する道路が狭隘な区間において、交通事故(車と車の事故は除く)の件数が減ったかどうかを確認する	高質空間に遊歩道を整備して、歩行者が安心・安全に通行できることで交通事故が減少したか効果測定ができる	3	平成30年度	0	令和6年度
街並みや景観	評価点	上の川周辺住民の意識調査(吹田市民意識調査)を行い、市民の満足度を確認する	みどりのネットワークを延伸することで、心がやすらぎ、人と地域と自然を育む街並みや景観の確保の効果測定ができる	58	平成30年度	63	令和6年度
地震や風水害などに対する対策	評価点	上の川周辺住民の意識調査(吹田市民意識調査)を行い、市民の満足度を確認する	大学へ災害時の緊急物資等が受け入れられるアクセス道路を整備し、地域と大学が連携して災害に備える能力が得られたか効果測定ができる	48	平成30年度	53	令和6年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・整備方針1(みどりのネットワーク軸の延伸)                      上の川橋から蓮華寺橋までの歩行空間が狭隘な300m区間において、高質空間を整備するために河川を暗渠化して用地を創出することで、糸田川からのみどりのネットワーク軸が延伸できる。また、災害時には、垂水上池公園から関西大学までの既存歩道とあわせて、大学まで歩いて避難できる防災のネットワーク軸となるほか、市域の遊歩道めぐりを示す『ぶらっと吹田マップ(平成30年発行)』のネットワーク網を拡大し、周辺の既存公園に整備する健康増進の遊具等と連携した利用を促すことで健康増進を図る。</p>	<p>方針に合致する主要な事業                      基幹事業：(高質空間形成施設)上の川遊歩道整備                      基幹事業：(公園)健康増進の遊具等の整備                      基幹事業：(道路)広芝町1号線歩行者自転車専用道路改良                      提案事業：(まちづくり活動推進事業)糸田川・上の川健康ウォーキングイベント</p>
<p>・整備方針2(地域防災力の向上)                      関西大学は吹田市と『災害に強いまちづくりにおける連携協定』を締結し、減災対策や災害弱者対策に取り組んでいるほか、「国土強靱化貢献団体」の第1次認証団体とされた。しかし、大学に隣接する地域緊急交通路である府道吹田箕面線から大学へのアクセス道路の一部が狭隘であるため、緊急物資等を積んだ大型車の輸送等に支障となっており、当該箇所の橋梁・踏切の幅員等の改善を図る。また、地域と大学等が連携した防災訓練等の活動を通じて地域防災力の向上を図る。</p>	<p>基幹事業：(道路)千里山東山手円山1号線交差点改良                      提案事業：(まちづくり活動推進事業)関大防災拠点啓発イベント</p>
<p>その他</p>	
<p>●都市景観への配慮                      吹田市では、潤いがあり、地域の特色ある景観づくりを総合的・計画的に推進するために、平成5年3月に、『吹田市都市景観形成基本計画』を策定しました。その後、環境と共生するまちづくりや安心・安全のまちづくり、近年の市内各地での市民活動の高まりなど、総合的なまちづくりの中で景観形成を考えていくことが必要とされ、平成16年6月に、『景観法』が制定されました。本市では、そのことをうけ、『吹田市都市景観形成基本計画(平成5年3月)』の見直しを行い、地域らしさと潤いある景観を形成し、快適な暮らしの環境の創造に資するとともに、市民、事業者、専門家等及び行政の協働による取組により、次代につなぐ良好な景観を「まもり、つくり、はぐくむ」ための基本的な方向性を示すものとして『吹田市景観まちづくり計画(平成19年3月)』を策定しています。上の川においては、高質空間の形成にあたり地域の特性に配慮した景観を形成するため吹田市景観アドバイザーの意見を求める等して配慮する予定です。</p>	



上の川周辺地区(大阪府吹田市)	面積 350 ha	区域 円山町、山手町の一部、出口町、泉町の一部、垂水町、金田町、南金田、広芝町の一部、穂波町の一部、江坂町の一部
-----------------	--------------	---

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



上の川周辺地区(大阪府吹田市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	大目標:「地域を繋ぐみどりと防災のネットワークを整備して、安心・安全でにぎわいのあるまちづくり」 目標1: 神崎川から豊津駅まで続くみどりのネットワーク軸を垂水上池公園までみどりの高質空間として延伸し、心がやすらぎ、人と地域と自然を育む 目標2: みどりの拠点(関西大学)からみどりの骨格(神崎川)まで繋がる歩行空間と点在する既存公園等を利用してウォーキング等による市民の健康増進を図る 目標3: 一時避難地及び災害時用臨時ヘリポートに位置づけられる関西大学へのアクセス道路の強化を図るとともに、地域と連携した防災啓発イベント等により地域防災力の向上を図る	代表的な指標	ぶらっと吹田ウォーキング参加者数 (人)	46 (H30年度) → 70 (R6年度)
			交通事故の減少 (件)	3 (H30年度) → 0 (R6年度)
			地震や風水害などに対する対策 (評価点)	48 (H30年度) → 53 (R6年度)

